

令和元年度 第2回 横浜市都筑公会堂指定管理者選定委員会	
日 時	令和元年8月22日(木)9時00分～12時00分
開 催 場 所	都筑区総合庁舎5階 第1会議室
出 席 者	中村委員長、手嶋委員、前川委員、山田委員、吉野委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(傍聴者10人)
議 題	1 面接審査 2 指定管理者選定審査
決 定 事 項	1 面接審査 応募団体による15分間のプレゼンテーションの後、15分間の質疑応答を行うこととした。なお、応募団体は以下の2団体であった。 (1) 団体A(都筑公会堂運営管理グループ) (2) 団体B(株式会社横浜都市みらい) 2 指定管理者選定審査 横浜市都筑公会堂第3期指定管理者の候補者及び次点候補者を次のとおり選定した。 (1) 指定候補者は、620点の「団体A(都筑公会堂運営管理グループ)」 (2) 次点候補者は、523点の「団体B(株式会社横浜都市みらい)」
委員意見等	議題 1 面接審査(応募団体ごとの主な質疑応答) 1 団体A(都筑公会堂運営管理グループ) (委員) 運営の安定性や採算性の向上のため、職員のマルチタスク化により人件費の削減し、高稼働率の中でも運営を良くしていこうとしている。マルチタスク化のための研修計画を具体的に教えてほしい。 (応募団体) 定例的に研修を行う。立上げ時には集合研修を複数回実施する。本社からのサポートや近隣施設からの応援を通じて、マルチタスクを実現したい。 (委員) 管理業務と技術的業務の両方ができる人材は限られているが、人材を安定して供給するための方法を教えてほしい。 (応募団体) 技術スタッフは代表企業が責任者を選任し、構成企業が副責任者を選任する。副責任者は舞台経験を積んだ音楽系の人材を副館長として配置する。加えて、舞台専門の舞台設備責任者を1名配置する。立上げから一か月間は、常時2名体制で対応する。 (委員) マルチタスクということなので、例えば技術スタッフも清掃はするのか。 (応募団体) 技術スタッフも掃除をする。特にトイレ掃除は夜間に重点的に行う。清掃技術は代表企業が保有している。

(委員) これまで利用者とトラブルとなったような事例があったら教えてほしい。特に照明関係の分担はトラブルになりやすいので教えてほしい。

(応募団体) 照明操作は基本利用者にやってもらう。技術スタッフも参加する事前打合せでサポート範囲を明確にしている。事前打合せで分担を明確にしているの、トラブルになったことはない。また、要望の多い照明設定をまとめて事前設定しておいて、事前打合せで施設側から提案できるようにする。

(委員) ホールの天井工事の時でも和室は利用できるのか。

(応募団体) 工事の状況次第だが、利用できるようであれば、利用したい。

(委員) 自主事業の収支について、収入 180 万円、支出 180 万円でまかなえるのか。

(応募団体) 構成企業のネットワークを活用することで、安価に提供できる。

2 団体B (株式会社横浜都市みらい)

(委員) 提案額が区の上限額を超えているが、理由を伺いたい。応募を見送るという選択肢はなかったのか。

(応募団体) 人件費が高騰している現状を理解してもらいたかった。地元とともに歩んできた企業なので応募に対する熱意を見せたかったこともあり、応募の見送りはしなかった。ただ、事業環境の変化に対して行政の動きが追いついておらず、人件費を含め雇用状況が大幅に変わっているなかで、実状を認識してほしくて応募した。もし技術スタッフが不要なイベントだけを受け入れるのであれば、上限額内での運営は可能であると考えている。しかし、現実的ではないため、敢えて上限額を上回る提案額を示させていただいた。

(委員) 照明などの技術スタッフ費は利用者に負担してもらえないのか。

(応募団体) 文化芸術系の団体は自前で技術スタッフを連れてくる場合もあるが、何らかのサポートが必要な利用者も多い。どちらも事前打合せでは技術スタッフの対応が必要となっているため、「ワンストップサービス」という仕組みで利用者から料金をお支払いいただく場合もあるが、費用を回収できない固定的な技術スタッフの配置も必要になっている。

(委員) 原状復帰に関して賠償を求められそうになったことがあるが、利用前後の確認はどのように行うのか。

(応募団体) 音が出る、出ないなどすぐに分かる確認はその場で行うが、トラブルの原因が分からない場合は、状況に応じて個別に対応することになる。

(委員) ISO 取得の予定はあるか。

(応募団体) 現時点では取得予定はない。研修等でスキルアップを図る。

	<p>(委員) 利用者とトラブルがあった場合に備えて、手厚い人員配置をお願いしたい。また、提案書の記載と運営実態が大きく乖離しないようにしてほしい。</p> <p>(応募団体) これまでトラブルなく運営してきており、この点は利用者から評価されていると考えている。</p> <p>(委員) 自主企画が少なく、提案からは地域貢献の取組が具体的に見えない。</p> <p>(応募団体) 自主企画については高稼働率のため、自主企画事業を抑えてその分を利用者に開放している。地域貢献については港北ニュータウン開発の経緯等を紹介する自主企画事業を行うことで対応したという認識だった。</p> <p>選定委員会講評</p> <p>いずれの団体も最低基準点を上回る提案であった。財務状況も応募時点では問題なし。</p> <p>【団体A（都筑公会堂運営管理グループ）】 地域の連携やコミュニティを作るという発想が評価できる。具体的手法として、ロビーの活用、障害者支援団体とのコラボ、情報発信の工夫、自主事業の充実を高く評価している。ただ、運営を行う中で人員が不足するリスクがあるかもしれない。</p> <p>【団体B（株式会社横浜都市みらい）】 地域密着型の団体という点が評価された。スタッフを手厚く配置して対応を充実させている。一方で人員コストが区指定上限額内で収まる提案となっていない。</p>
そ の 他	議事録については事務局で作成し、各委員に確認し確定する。